

相談支援センターだより

秋田大学医学部附属病院

相談支援センター 発行

第 27号平成 26 年 9 月 4 日

がん相談支援センターについて

我が国のがん対策はがん対策基本法の規定に基づく「がん対策推進基本計画」により総合的かつ計画的に推進されています。全国どこでも質の高い医療を提供できるよう指定要件の見直しが行われ、平成 26 年 1 月に「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」が定められました。この新指針のうち相談支援センターに関する記述では、必ず『がん相談支援センター』の名称を表記し、『がんの相談を受けられる場所＝がん相談支援センター』を積極的に周知することが義務付けられました。

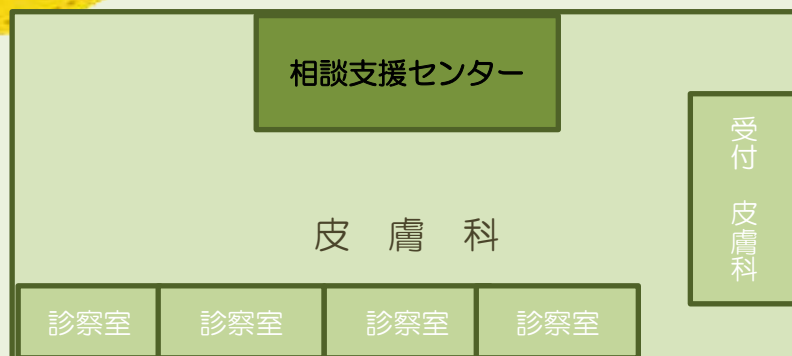
相談支援センターには、がん相談を行う体制としてがん対策情報センターの研修を修了した人員配置をすることや、患者・家族・患者団体・住民や医療機関などから相談対応をすることのほかに、全県域でがん相談支援を牽引する拠点病院の役割として情報共有や役割分担を含む協力体制を担っていくことが求められています。当院は秋田県唯一の特定機能病院として、「診療」「教育」「研究」の三つの責務を果たしつつ、がん診療拠点病院としてがん相談・情報提供においても県内の連携病院との協働をすすめることも欠かせない役割です。

相談支援センターの業務には「医療相談」「地域連携」「がん相談・がん情報提供」の 3 つがあります。医療相談・情報提供はがんのみが相談対象でありませんし、地域の医療資源が限られる中での退院・転院調整や高齢化や経済問題を背景としての困窮が大きく支援に難渋する場面も多くあります。

がん相談を提供する部署として“がん相談支援センター”の名称が併記されますが、がんに限らず患者さんや地域住民・医療機関を含め、相談対応を行う窓口として相談支援センターがあります。改修工事が終わるまで外来棟 3 階（皮膚科の一角）にあります。ご不便をおかけしておりますが、いつでもどんなことでもご相談ください。

そうだんしえんセンター

外来診療棟 3 階
に移動しました



「皆さんのご意見・ご要望」より

当院をご利用になる皆様の声を一部掲載させていただきます



ケース1：尿検査を実施するため中央検査室のトイレへ行ったところ、荷物入れがあったことに驚きました。荷物が多くなっている状態でトイレの中へ入るため、ありがたいことです。そして、検査室の方々も対応が良かったです。心エコーの場所がわからず、看護師に尋ねるととても親切に対応して下さい、気持ちよく受診できました。前職が看護師だったので、大学病院で看護師をやりたいという気持ちになりました。(平成26年6月受付分)

回 答：この度も、心温まるお言葉を頂き本当にありがとうございます。これからも、患者さんが気持ちよく検査や治療を受けられるよう対応していきたいと思えます。

ケース2：病棟にそなえつけられている洗濯機の汚れがひどいです。洗濯をするたびに、衣類に黒いカビのかたまりが大量についてきます。掃除はされていると書かれていますが、使用をためらう汚れのつき具合です。院外に出ることのできない生活をしていて、これでは非常に困りますので、対応をお願いします。(平成26年7月受付分)

回 答：この度は、不快な思いをさせてしまい大変申し訳ありませんでした。洗濯機のメンテナンス業者に掃除の状況を確認したところ、現在は2ヶ月に一回の割合で洗濯槽は自動洗浄しています。しかし今回のご意見を受け1ヶ月に一回、薬剤を用いた洗浄に切り替えることにしました。また、同様な状態が起こった場合には、洗濯機自体を分解掃除して対処いたします(その場合には、洗濯料金はご返金させていただきます)。病棟の清掃業者にも再度洗濯機や乾燥機の蓋など周囲の汚れを確認し、掃除を行うよう指導いたしました。今後もお気づきの点がありましたら、ご意見をお願いいたします。重ねてお詫びを申し上げます。

第11回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会

第11回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会は、平成26年7月11日(金)～12日(土)長崎でおこなわれ、全国42大学から270名余名、職種は医師・看護師・MSW・心理士などの参加がありました。他大学と比べ当院からの参加者は少なく、連携・退院部支援部門に対する関心や相談員の増員が他大学に比べ、立ち遅れているとの印象を受けるものでした。「入退院システムの必要性と機能を考える」のシンポジウムでは、当院で行われていない入退院システムを先行する病院も多く、情報収集提供を統括することが医療提供の業務効率化と病棟稼働率への貢献になり、ケアの質の向上につながることを学びました。

当院からは「在宅医療連携外来について」を報告する機会を与えられ先行的な取り組みとして評価され活発な討論が行われました。今後大学病院の連携部門は、入退院や地域連携など機能を重視する分野と、質的業務を重点的に行う分野を分けるなど方向性が垣間見えた今回の協議会でした。

